

第3章 水需要の見通し

1 給水人口の見通し

1. 給水人口

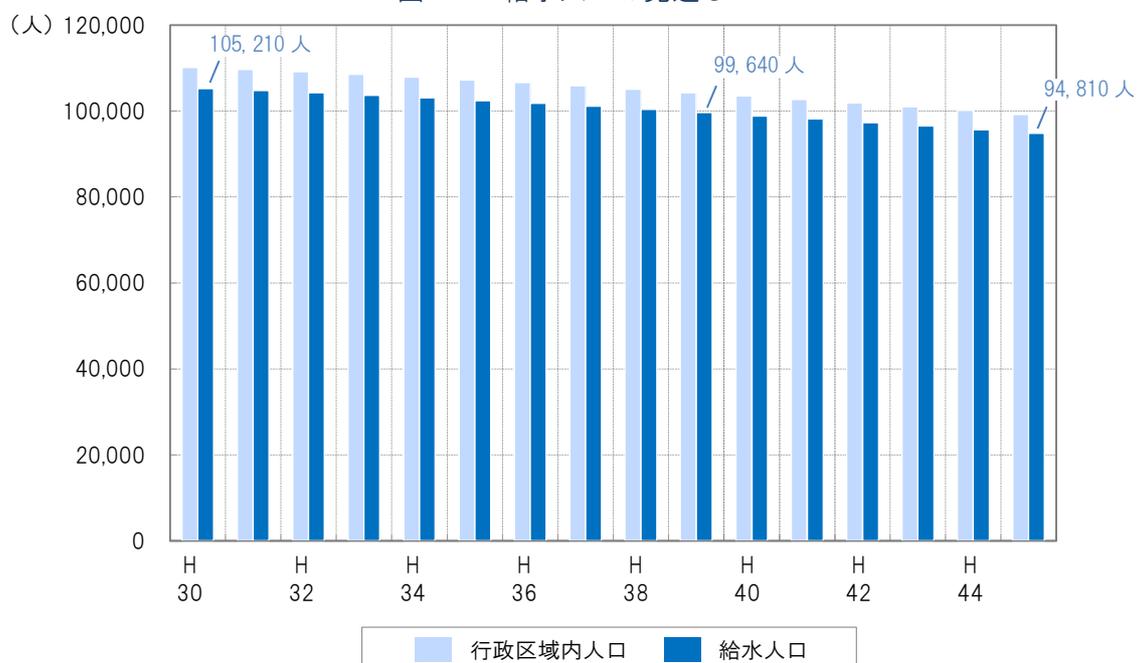
三島市の人口は、平成 17 年 12 月の 114,354 人をピークに、その後緩やかな減少傾向となっています。平成 28 年度末は 111,239 人となり、ピーク時と比較して約 3%減少しており、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」によると、今後もこの傾向は続くものと見込まれています。

図 3.1 は給水人口の将来見通しを示しています。給水人口も人口と同様の傾向で将来も継続した減少傾向を示し、計画期間の最終年である平成 39 年度には 100,000 人をわずかに下回る 99,640 人を見込んでいます。

2. 給水普及率

三島市の水道普及率（給水人口÷行政区域内人口）は、平成 28 年度で 97.0%と、すでに高い水準にあります。民営簡易水道や飲料水供給施設との統合は地理的な条件等を考慮すると難しく、計画的に普及率をさらに向上させることは現実的に難しいため、普及率は現状を維持するものとして将来の給水人口を推計しています。

図 3.1 給水人口の見通し

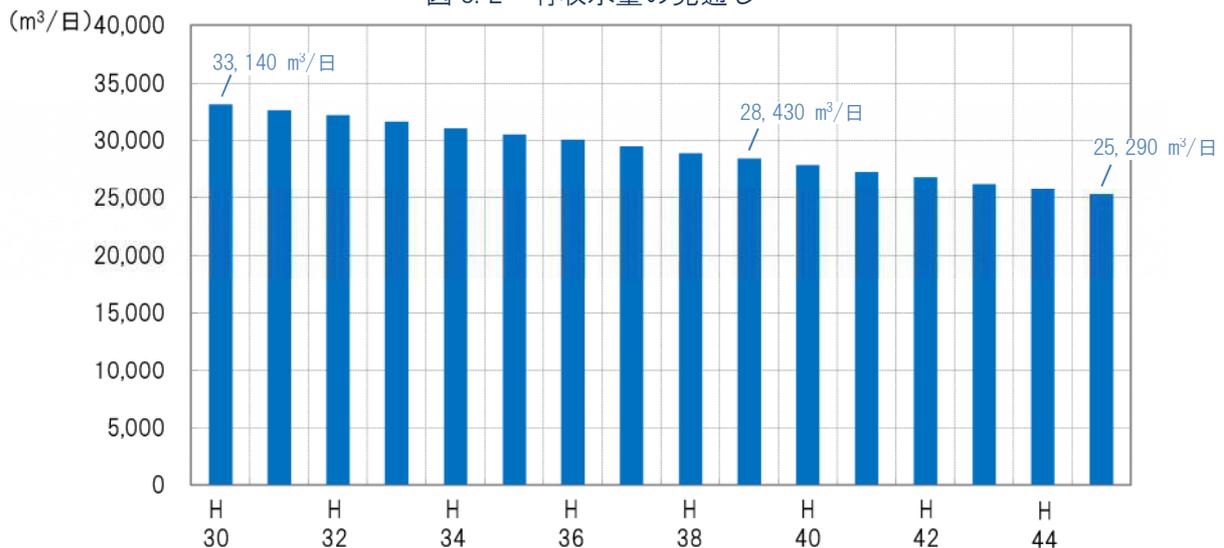


2 給水量の見通し

1. 有収水量

図 3.2 は有収水量の将来見通しとなります。平成 28 年度の有収水量実績が 34,741 $\text{m}^3/\text{日}$ であったのに対して、平成 39 年度は 28,430 $\text{m}^3/\text{日}$ と約 2 割の減少が見込まれています。有収水量のうち、約 8 割を一般家庭用が占めており、少子高齢社会の進行や、節水機器の普及等による家庭での使用水量の落ち込みが大きな原因と考えられます。有収水量は給水収益に直結するため、今後も給水収益は減少が予想されます。

図 3.2 有収水量の見通し



2. 一日平均給水量、一日最大給水量

図 3.3 は一日平均給水量と一日最大給水量の将来見通しを示しています。有収水量と同様に減少傾向が見込まれるため、構造物や設備、管路施設を更新する際に、適正な施設規模を見極め、投資コストや維持管理コストを抑えたアセットマネジメントを策定、施設整備を進めていきます。

図 3.3 一日平均給水量、一日最大給水量の見通し

